

砂防関係施設点検要領（案）

補足資料

（雪崩防止施設編）

● 県版点検カルテ案の説明

■点検カルテ作成のあたっては、継続して使用していくことを前提に、客観的に評価できるようコメント及び写真撮影に留意すること。

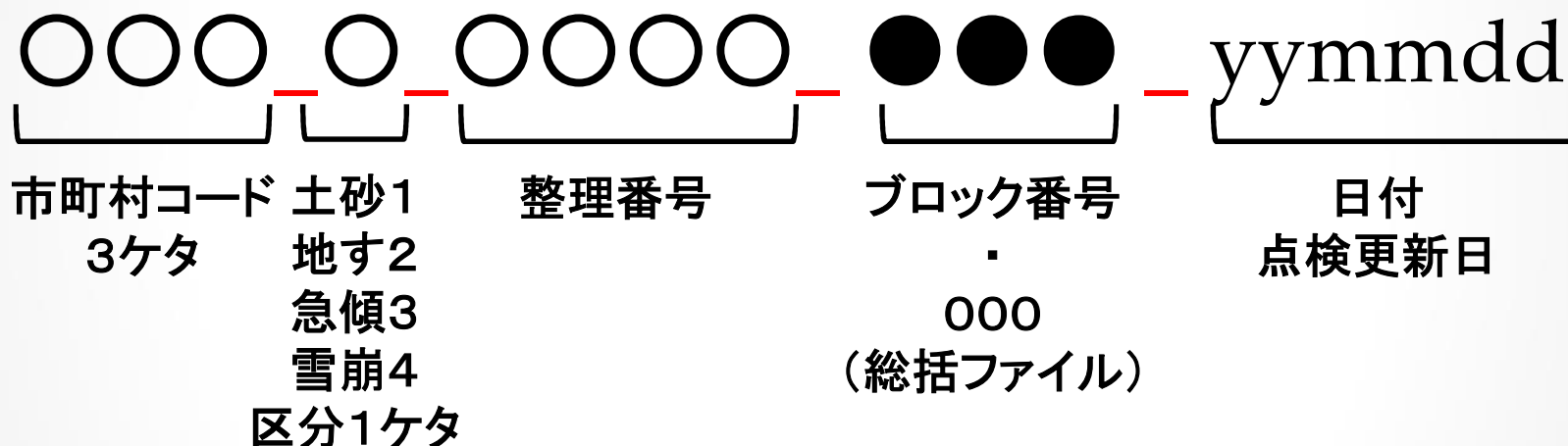
■変状レベルの評価にあたっては、砂防関係施設点検要領に準じ、点検チェックシートを用い評価を行うこと。

■写真撮影にあたっては、前年度と同様に位置より、同様の画角で撮影し、経年的な変化が確認出来るよう留意すること。

■次頁、赤色吹き出しで示した事項については、事前に準備し、青色吹き出しで事項に留意し、カルテを作成すること。

県版点検カルテ案の作成(雪崩防止)② ファイル構成

雪崩防止の点検カルテのファイル名の命名ルール



《記入例》 全て半角入力とし、各項目の間に「_」(半角のアンダーバー)を入れて区切る

325_4_0001_001_181112

県版点検カルテ案の作成(雪崩防止)② ファイル構成

※ブロック番号(3桁)について

- ・“総括ファイル”については、[000]とゼロ3桁とします
- ・“点検個票”については、ブロック番号[●●●]3桁とします。

鳥取県砂防関係施設長寿命化計画 雪崩防止施設_点検様式体系図

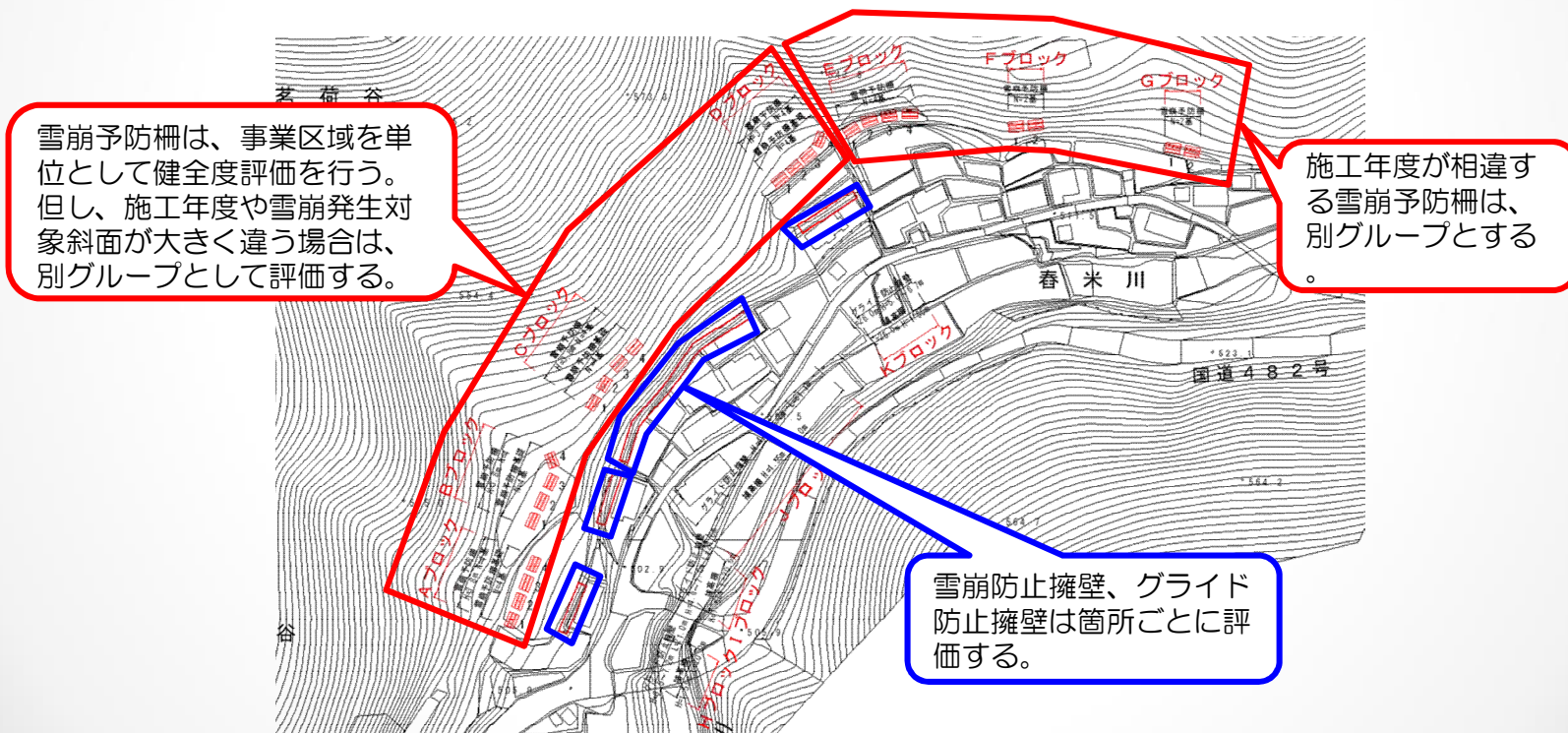


県版点検カルテ案の作成(雪崩防止)③ ブロックの考え方

雪崩防止施設は、ひとつの地区に複数の工種が整備されていることがあり、健全度(点検)の評価単位は下記としている。このため、ブロック個別個票も評価単位と同じとする。

[雪崩予防柵]: 事業区域、施工年度、雪崩発生対象斜面を勘案してグループ化した単位。

[雪崩防止擁壁、グライド防止擁壁]: 箇所ごとに1つの単位。



<雪崩防止施設の例:八頭県土 若桜町 茗荷谷区域>

県版点検カルテ案の作成(雪崩防止)④ 各ファイルの記入

各ファイルには下記の事項をとりまとめる。

①総括ファイル(総括シート)

:各ブロックの点検結果総括および周辺状況の整理

②ブロックファイル(点検個票 ブロックシート)

:各ブロックの点検結果

①雪崩防止施設
点検票
(様式-0)

※全ブロック評価を記載
※評価A～C1全て記載

国土地理院発行の2
万5千分の1地形図
を用いること。

雪崩防止施設点検票(様式-0)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域



点検日時: 平成30年11月12日

株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

所在地			所管事務所	備考
市・郡	区・町・村	字		
八頭郡	若桜町	春米	八頭県土整備事務所	

位置図	写真
 <p>東経 134° 28' 37" 北緯 35° 21' 21"</p>	

全景写真を掲載すること。

No	ブロック	対象施設種別	健全度評価結果				備考
			前回点検		今回点検		
			年月日	評価	年月日	評価	
1	A	雪崩予防柵 N=5基			H30.11.12	B	梁材の小規模な変形
2	B	雪崩予防柵 N=14基			H30.11.12	B	亜鉛メッキ塗装の劣化・アンカー頭部腐食
3	C	雪崩予防柵 N=18基			H30.11.12	C1	アンカーの飛び出し・鋼材の腐食・倒木

砂防関係施設点検要領の変状レベルの評価基準に準じ、各部位の変状レベルを設定

②詳細位置・アクセス図 (様式-0-1)

詳細位置・アクセス図(様式-0-1)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域

点検日時: 平成30年11月12日

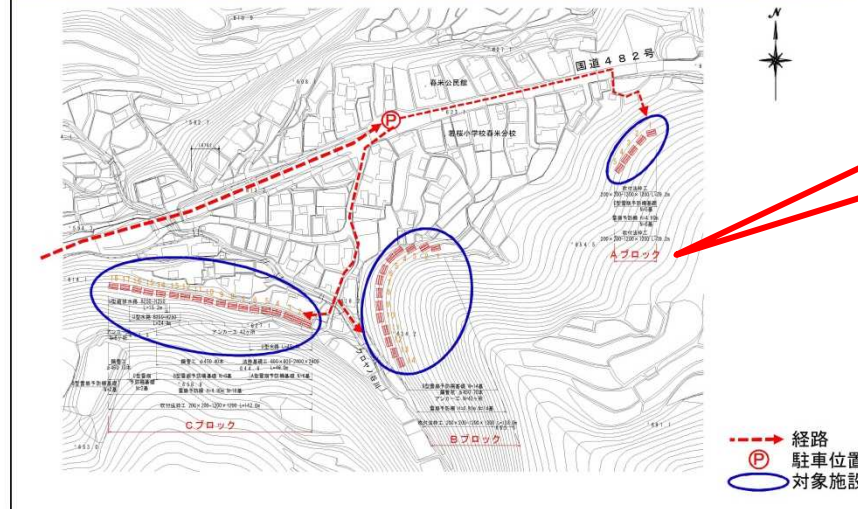
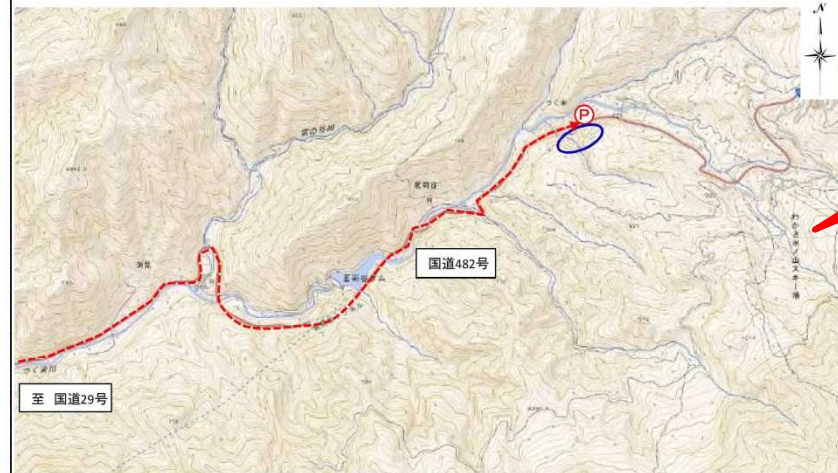
株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

所在地			所管事務所	備考
市・郡	区・町・村	字		
八頭郡	若桜町	春米	八頭県土整備事務所	

詳細位置・アクセス ※主要道路(国道、県道)からの経路、車両の駐車位置を1/25000程度の地図、写真により示す。



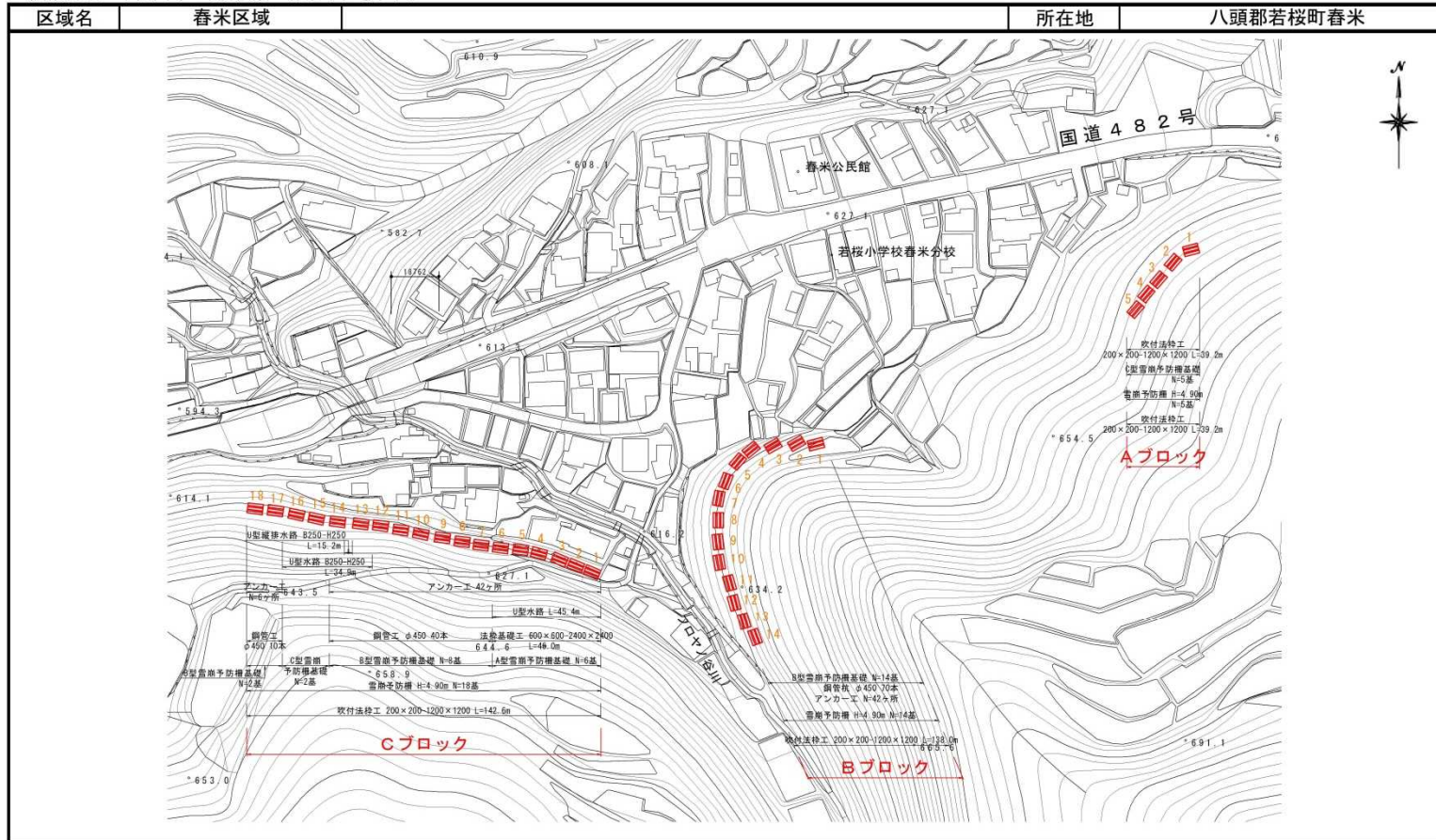
デジタルマップなど縮尺が1/25000程度の地形図を用い、主要道路(国道、県道)からの調査経路および車両駐車位置を示すこと。

雪崩防止施設台帳の平面図などを用い調査箇所の詳細がわかるようにすること。

③点検対象設備 平面図

点検対象設備 平面図

※設備台帳の平面図等に、点検票の作成単位を示す。



④雪崩防止施設 点検票 (様式-1)

※ブロック毎に作成
 ※変状レベルa~cを記載
 ※変状レベルaは部位毎に代表するもの
 (程度の悪いもの) 1件記載。

雪崩防止施設点検票(様式-1)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域

点検日時: 平成30年11月12日

株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Cブロック

主施設	雪崩予防柵 N=18基	副施設	雪崩予防柵基礎・アンカー工・吹付法砕工・U型水路
-----	-------------	-----	--------------------------

点検結果一覧

※cもしくはb評価を対象とする

番号	施設名	変状箇所	変状種別	変状レベル*	評価した理由	備考
C3	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	b	亜鉛メッキ塗装の劣化	写真番号: 8
C4	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	b	亜鉛メッキ塗装の劣化	写真番号: 10
C4	雪崩予防柵	ステーロッド	腐食	b	ステーロッド接続部の腐食	写真番号: 12
C6	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	b	亜鉛メッキ塗装の劣化	写真番号: 18
C6	雪崩予防柵	アンカー工	飛び出し	c	アンカー頭部の飛び出し	写真番号: 19
C6	雪崩予防柵	主柱・支柱	腐食	b	支柱と基礎接合部の腐食	写真番号: 20
C6	雪崩予防柵	ステーロッド	腐食	b	ステーロッド接続部の腐食	写真番号: 21
C7	雪崩予防柵	ステーロッド	腐食	b	ステーロッド接続部の腐食	写真番号: 22
C8	雪崩予防柵	水平梁材・支柱	塗装の劣化	b	亜鉛メッキ塗装の劣化	写真番号: 28
C15	雪崩予防柵	主柱・支柱	腐食	b	支柱と基礎接合部の腐食	写真番号: 45
C16	雪崩予防柵	水平梁材・支柱	塗装の劣化	b	亜鉛メッキ塗装の劣化	写真番号: 47
C18	雪崩予防柵	水平梁材・支柱	倒木	c	倒木(水平梁材に影響あり)	写真番号: 53,54
C18	雪崩予防柵	法砕工	倒木	b	撤去を要する倒木あり	写真番号: 55
健全度評価		C1				

健全度評価フローに
 準じ、当該点検結果
 に基づく施設の健全
 度を記載

変状レベルの評価に
 使用した写真番号を
 記載

特に変状レベルcと評
 価する場合は客観性を
 持たせるよう数値を示
 し、bと評価する場合
 はどの部分が変状して
 いるのか具体的に示す
 こと

砂防関係施設点検要
 領の変状レベルの評
 価基準に準じ、各部
 位の変状レベルを設
 定

変状箇所についての
 詳細事項を整理。
 また次回の点検およ
 び今後の対策に有効
 な情報を記載する。

設置位置: 雪崩発生区(発生斜面)

施設機能: 予防柵工(柵構造物によって、雪崩の発生を未然に防ぐ)

斜面状況: 急斜面の自然及び切土斜面であり法砕工が施工されている。管理道で杉の倒木があり、ガードパイ
 プ破損、一部施設へ影響がある。

施設所見:

- ・雪崩予防柵の破損・変形はない。
- ・雪崩予防柵のC18で水平梁材、法砕工に影響する倒木がある。→変状レベルc
- ・雪崩予防柵のC3、4、6、7、8、15、16で梁材、結合部に腐食がある。(亜鉛メッキ塗装劣化)
- ・雪崩予防柵基礎のC6でアンカー頭部の飛び出しがある。→変状レベルc
- ・雪崩予防柵梁材へ植生の絡まりが一部ある。(施設に影響なし・伐採管理要)
- ・雪崩予防柵梁材への土砂等堆積はない。
- ・周辺状況: 高木の倒木によるガードパイプの破損あり。(写真番号: 3、26)
- ・健全度評価はC1: アンカー工頭部飛び出しの補修対策、倒木の撤去が必要。

⑤写真位置図 (様式-2)

※変状レベルa~cを記載
 ※変状が全くない場合でも評価するものは変状レベル「a」として青色で示す。
 全景や砂防設備以外のものなど評価しないものは黒色で示す。

写真位置図(様式-2)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域

点検日時: 平成30年11月12日

株式会社ウエスコ

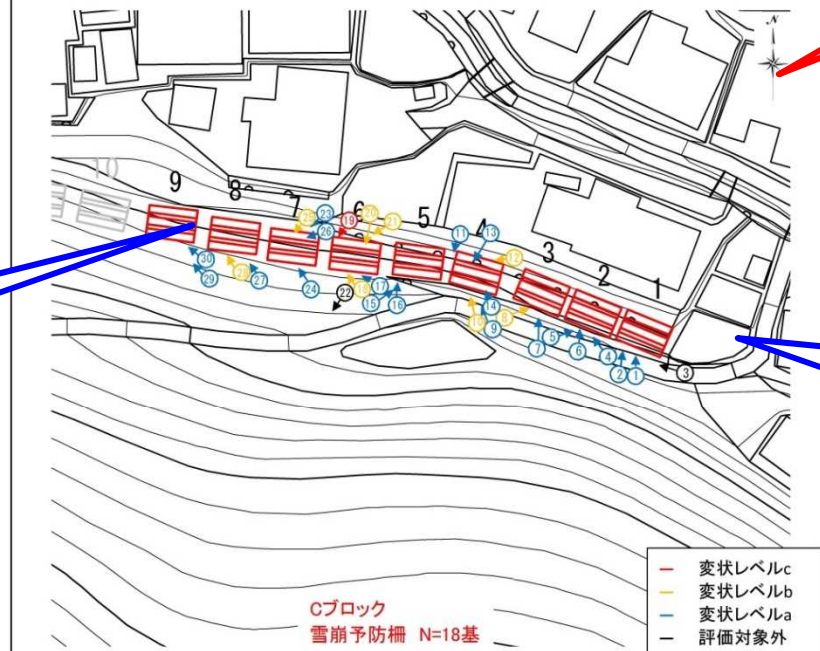
点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Cブロック

主施設 雪崩予防柵 N=18基 副施設 雪崩予防柵基礎・アンカー工・吹付法砕工・U型水

写真位置図



施設台帳に掲載された写真位置図を加工し用いること。

写真番号および撮影方向を示すこと。

写真番号は変状レベルが識別できるように色分けし、変状レベルと関係ない番号について黒色で示すこと。

施設の周辺状況や現地で気づいた点について記載すること。

周辺状況、アクセス等の現場状況

- ・国道29号から国道482号「わかさ氷ノ山スキー場」方面に約8.0km北上し、春米公民館前(春米神社前)の道路敷に駐車し、徒歩で当該雪崩予防柵に到達する。
- ・植生は雪崩予防柵の斜面上部は雑木林であり、斜面下部は杉林となっている。
- ・保全対象として、若桜小学校春米分校がある。

⑥写真集 (様式-3)

※変状レベルa~cを記載
 ※変状レベルaは部位毎に代表するもの(程度の悪いもの)1件記載。
 ※全景や砂防設備以外の変状レベルは「-」を記載。コメントは可能な限り定量的に記載。

写真撮影日欄を追記。
 写真を更新した場合は、その写真の撮影日を個別に記入

全景など変状箇所、変状レベルを評価しない写真については、空白ではなく「-」を記載

対象とする構造物の名称を示しておくこと

何を撮影したのかを示しておくこと

写真帳(様式-3)

事前防止施設整備区域名: 春米区域

点検日時: 平成30年11月12日







株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Cブロック

主施設: 蓄前予防柵 N=18基 副施設: 蓄前予防柵基礎・アンカー工・吹付法砕工・U型水

写真	※写真は「変状のない施設」についても撮影し、掲載するものとする。	
		
撮影日: 2018/11/12	撮影日: 2018/11/12	
写真番号: 1 設備番号: C1 工種: 蓄前予防柵	写真番号: 2 設備番号: C1 工種: 蓄前予防柵	
変状箇所: 全体 変状レベル: a	変状箇所: 水平梁材・支柱 変状レベル: a	
コメント: 変状なし	コメント: 樹生の絡まり(施設に影響なし; 伐採管理の範囲)	
		
撮影日: 2018/11/12	撮影日: 2018/11/12	
写真番号: 3 設備番号: C1 工種: 蓄前予防柵	写真番号: 4 設備番号: C2 工種: 蓄前予防柵	
変状箇所: 周辺状況 変状レベル: -	変状箇所: 全体 変状レベル: a	
コメント: ガードパイプの破損	コメント: 変状なし	
		
撮影日: 2018/11/12	撮影日: 2018/11/12	
写真番号: 5 設備番号: C2 工種: 蓄前予防柵	写真番号: 6 設備番号: C2 工種: 蓄前予防柵	
変状箇所: 水平梁材・支柱 変状レベル: a	変状箇所: 水平梁材・支柱 変状レベル: a	
コメント: 樹生の絡まり(施設に影響なし; 伐採管理の範囲)	コメント: 変状なし	
写真	※写真は「変状のない施設」についても撮影し、掲載するものとする。	

⑥写真集 (様式-3)

写真撮影日欄を追記。
写真を更新した場合は、
その写真の撮影日を個別
に記入

写真ではわかりづら
いひび割れ等は該当
箇所を赤丸で示すこ
と。

変状箇所については遠
景だけでなく近景写真
も掲載すること。

写真帳(様式-3)


養護防止施設整備区域名: 横路区域

点検日時: 平成30年11月6日
株式会社ウエスコ


点検ブロック名: Aブロック

点検者: 橋本・井本・山科
記入者: 井本


主施設	グライド防止擁壁 L=88m	副施設	補高柵
-----	----------------	-----	-----




撮影日: 2018/11/6
写真番号: 19 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 擁壁工 変状レベル b
コメント: 中央 背面 ひび割れ




撮影日: 2018/11/6
写真番号: 20 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 擁壁工 変状レベル b
コメント: 中央 背面 ひび割れ




撮影日: 2018/11/6
写真番号: 21 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 擁壁工 変状レベル b
コメント: 遠景 中央 背面 ひび割れ



撮影日: 2018/11/6
写真番号: 22 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 擁壁工 変状レベル b
コメント: 近景 中央 背面 ひび割れ



撮影日: 2018/11/6
写真番号: 23 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 補高柵 変状レベル a
コメント: 中央 背面 変状なし



撮影日: 2018/11/6
写真番号: 24 | 設備番号: A | 工種: グライド防止擁壁
変状箇所: 補高柵 変状レベル a
コメント: 東側 背面 変状なし

写真 ※写真は「変状のない施設」についても撮影し、掲載するものとする。

⑦変状位置図 (様式-4)

※変状レベルa～cを記載
 ※変状レベルaは様式-3のコメント欄に留意事項があるもののみ記載。

変状位置図(様式-4)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域

点検日時: 平成30年11月12日

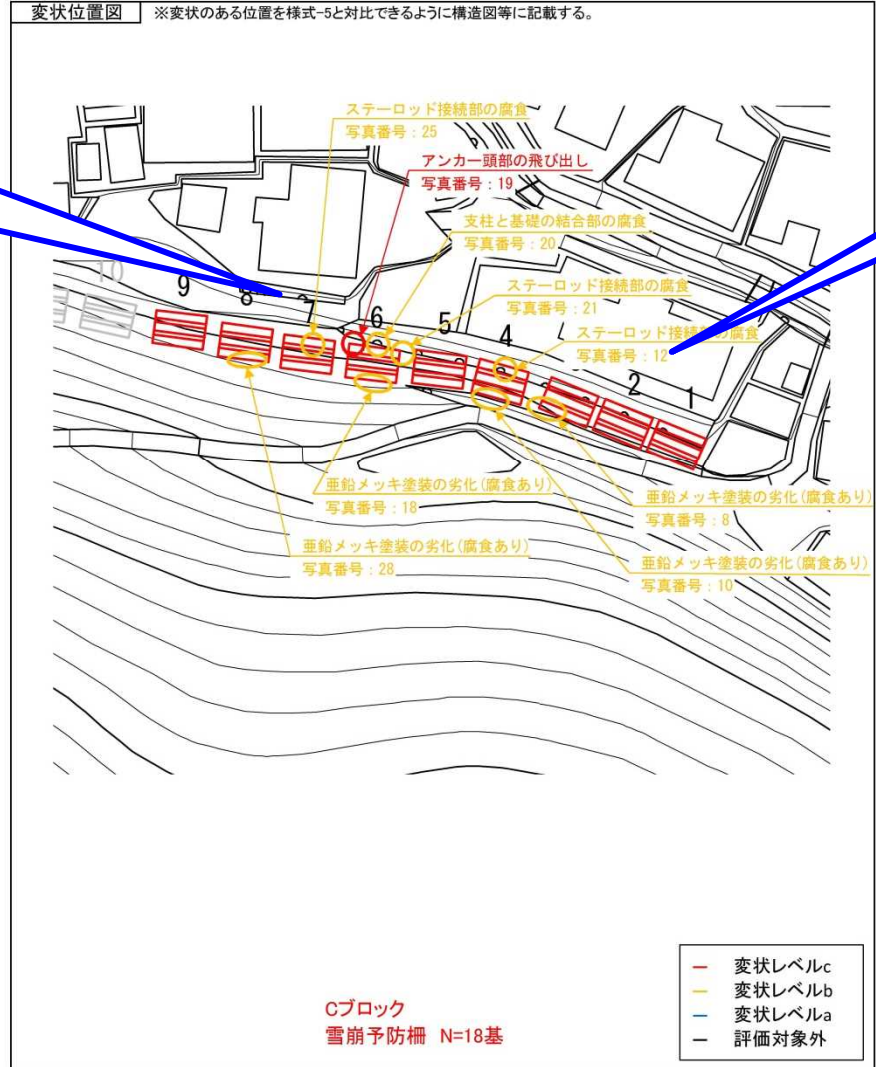
株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Cブロック

主施設	雪崩予防柵 N=18基	副施設	雪崩予防柵基礎・アンカー工・吹付法砕工・U型水
-----	-------------	-----	-------------------------



⑧進行性確認 (様式-5)

※変状レベルb、cを記載

過年度調査結果を事前に準備し貼付けておくこと。

次頁のように様式を修正する



進行性確認(様式-5)(評価c及びb判定施設)

雪崩防止施設整備区域名: 春米区域






点検日時: 平成30年11月12日

株式会社ウエスコ

点検者: 橋本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Cブロック

主施設		雪崩予防柵 N=18基		副施設		雪崩予防柵基礎・アンカー工・吹付法砕工・U型水	
番号	施設名	変状箇所	変状種別	点検実施年度		経年変化に対するコメント	
				平成 年(前回調査)	平成30年(今回)		
C3	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化		写真番号: 8 	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。	
				変状レベル:	変状レベル: b		
C4	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化		写真番号: 10 	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。	
				変状レベル:	変状レベル: b		
C4	雪崩予防柵	ステーロッド	腐食		写真番号: 12 	ステーロッドの腐食を確認した。今後、経過観察が必要である。	
				変状レベル:	変状レベル: b		
C6	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化		写真番号: 18 	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。	
				変状レベル:	変状レベル: b		
C6	雪崩予防柵	アンカー工	飛び出し		写真番号: 19 	アンカー頭部の飛び出しを確認した。	
				変状レベル:	変状レベル: c		

可能な限り前回と同じアングルで撮影して、比較できるようにすること

今後特に何に着目し観察したら良いかを示しておくこと

⑧進行性確認 (様式-5)

※変状レベルb、cを記載

前頁のように2回分のみの様式の場合
 ・5回分の点検を一覧できる様式へ修正する。
 ・写真撮影日欄の追加及び撮影日を記入する。

進行性確認(様式-5) (評価c及びb判定施設)

雪崩防止施設整備区域名: 森米区域

点検日時: 平成30年11月12日

株式会社ウエスコ

点検者: 榎本・井本・木原

記入者: 井本

点検ブロック名: Gブロック

番号	施設名	変状箇所	変状種別	点検実施年度					経年変化に対するコメント
				20一年(前回調査)	2018年(今回)	20一年	20一年	20一年	
C3	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	写真番号: 撮影日:	写真番号: 8 撮影日: 2018/11/12	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。
				変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: b 写真番号: 10 撮影日: 2018/11/12	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	
C4	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	写真番号: 撮影日:	写真番号: 12 撮影日: 2018/11/12	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。
				変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: b 写真番号: 18 撮影日: 2018/11/12	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	
C6	雪崩予防柵	水平梁材	塗装の劣化	写真番号: 撮影日:	写真番号: 19 撮影日: 2018/11/12	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	塗装の劣化を確認した。今後、経過観察が必要である。
				変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: c 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	変状レベル: 写真番号: 撮影日:	
C6	雪崩予防柵	アンカー工	飛び出し	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	写真番号: 撮影日:	アンカー頭部の飛び出しを確認した。

過年度調査結果を事前に準備し貼付けておくこと。

写真撮影日欄を追記。写真を更新した場合は、その写真の撮影日を個別に記入

可能な限り前回と同じアングルで撮影して、比較できるようにすること

今後特に何に着目し観察したら良いかを示しておくこと

砂防関係施設点検要領 変状レベル評価基準

変状レベル設定時は、砂防関係施設点検要領に準拠すること。また、cと評価する場合、補足説明事項を確認すること

補足：下表に示す広範囲とは5.0m以上の変状をいい、またひび割れについては、石積張、ブロック積張工でも発生する変状であるため、これを適用する。また、不連続であっても範囲として5.0m以上となる場合は、これを適用する。

主な部位の変状レベルの評価基準（張工）

変状レベル	張工			
	【コンクリート張工】ひび割れ	【コンクリート張工】湧水	【石積張・ブロック積張工】欠損等	【石積張・ブロック積張工】はらみ出し・変形
a 軽微な損傷	○変状なし 	○変状なし 	○変状なし 	○変状なし
b 損傷あるが、機能・性能低下に至っていない	○部分的なひび割れで、比較的短くランダムに発生している 	○ひび割れ箇所から、部分的にしみ出し程度の湧水が認められる 	○積石またはブロックの欠損があるが部分的である 	○微細な変形（はらみ出し、継ぎ目のずれ等）が認められる
c 機能・性能低下あり	○水平又は鉛直方向のひび割れが同方向に連続（又は断続）して発生している ○背面土砂の吸出しが確認される 	○顕著な湧水が認められる ○背面土砂の吸出しが確認される 	○積石またはブロックの欠損が「広範囲」で生じている 	○顕著な変形（はらみ出し、継ぎ目のずれ等）が認められる
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 部分的なヘアクラックは、施工状況や経年劣化で起こる可能性が高く、性能に影響は少ないが、連続する開口亀裂は性能を著しく低下させる。 亀裂が「広範囲」に連続して生じた場合は、コンクリート張工の損壊の恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漏水箇所ではコンクリートや内部の鋼材の劣化が促進され、性能が低下する。 降雨の後でなくても漏水がある場合は、常時湧水があるため、施設に過度の応力がかかっている可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠損により裏込めコンクリート等も破損すれば、急傾斜地の崩壊を抑制する機能が低下する。 欠損により背面土砂の吸出しが起こり、斜面を脆弱化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的には土圧を考慮した構造物ではないため、はらみ出しが顕著である場合は、過度の土圧が働いており性能が著しく低下している。 はらみ出しが進行した場合、石張工の損壊の恐れが懸念される。
点検留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 不安定で崩壊の危険がある部分を除去し、施工後の斜面の浸食、のり面の風化防止をはかる工法である。 張工内部で表面侵食や斜面の剥離が進行し、特にすべりが発生している場合などはらみだし等により表出し、最終的には斜面が崩壊することに留意して点検する。 顕著な湧水箇所では被覆材の劣化が促進すること、湧水に伴う流水により背面の空洞化が懸念され、空洞化が進行すると陥没やずれ落ち、構造物の脱落が発生することに留意。 石積やブロックの局所的な脱落、水平ひび割れ、湧水箇所、構造体の変形などについて確認する。 目視による判断が不能な場合は、除草・登坂手段の確保のうえ点検を行う。 不可視部分の評価についてはハンマーなどによる打音点検を併用することが望ましい。 			

点検チェックシート

※変状レベルによらず該当する項目は全てチェックし、総合評価としてチェック欄に○を付す。

点検チェックシート

1/3

点検時はチェックシートを持参し該当する項目には全てチェックを入れること

変状箇所が大きいと確認出来た場合は、変状レベルcに該当するか確認すること。

該当しない施設の項目は、削除すること

施設種別	変状レベル	点検項目	チェック
1 地表排水工 (排水構造物工)	c	<ul style="list-style-type: none"> ・0.6m以上の広範囲にわたって水路工のつまりが確認される。 ・一部へ集中したり、0.6m以上の広範囲に連続しているひびわれが確認される。 ・0.6m以上の広範囲にわたって漏水が確認される。 ・0.6m以上の広範囲にわたって破損が確認される。 ・その他の変状() 	
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・一部区間に水路工のつまりが確認される。 ・部分的なひびわれが確認される。 ・一部区間で漏水が確認される。 ・一部区間で破損が確認される。 ・その他の変状() 	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ✓水路工のつまりは確認されない。 ✓ひびわれは確認されない。 ✓漏水は確認されない。 ✓破損は確認されない。 ✓その他の変状(落ち葉の堆積が確認できる。) 	○
2 雪崩予防柵 補高柵 雪崩防護柵 (水平梁材タイプ)	c	<ul style="list-style-type: none"> ・各部材に線状の亀裂が確認される。または部材が破損、脱落している。 ・各部材の厚さ以上の大きな変形が確認される。 ・各部材に広範囲かつ深い腐食(膨張や板厚減少)が確認される。 ・広範囲にわたり50cm以上の土砂堆積が確認される。 ・一群当たり5%以上のボルトのゆるみや脱落が確認される。(結合部) ✓その他の変状(水平梁材の機能低下を及ぼす倒木が確認できる。) 	○
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・各部材に亀裂が確認されるが、線状ではない。線状でも短く、数も少ない。 ・主柱・水平部材・支柱・連結材の小規模な変形が確認される。 ✓部分的に主柱・水平部材・支柱・連結材の腐食が確認される。 ・部分的に予防柵上または防護柵背面に土砂堆積が確認される。 ・一群当たり5%未満のボルトのゆるみや脱落が確認される。(結合部) ・その他の変状() 	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ✓主柱・水平部材・支柱・連結材の破損は確認されない。 ✓主柱・水平部材・支柱・連結材の変形は確認されない。 ・主柱・水平部材・支柱・連結材の腐食は確認されない。 ✓予防柵上または補高柵・防護柵背面に土砂堆積は確認されない。 ✓主柱・水平部材・支柱・連結材取付部ボルトのゆるみや脱落は確認されない。 ・その他の変状() 	
3 補高柵+落石防護工 (金網ネットタイプ)	c	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲にわたり、支柱・防護柵の破損が確認される。 ・支柱・防護柵の大きな変形が確認される。 ・広範囲にわたり、支柱・防護柵の腐食が確認される。 ・広範囲にわたり、擁壁背面の空容量の1/2以上の範囲での土砂堆積が確認される。 ・規模の大きな顕著な変形が確認される。 ・規模の比較的大きな基礎の顕著な沈下が確認される。 ・その他の変状() 	
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・部分的に、支柱・防護柵の破損が確認される。 ・支柱・防護柵の小規模な変形が確認される。 ・部分的に、支柱・防護柵の腐食が確認される。 ・部分的な、背面の土砂堆積が確認される。 ・規模の小さな微細な変形が確認される。 ・小規模な基礎の微細な沈下が確認される。 ・その他の変状() 	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱・防護柵の破損は確認されない。 ・支柱・防護柵の変形は確認されない。 ・支柱・防護柵の腐食は確認されない。 ・背面の土砂堆積は確認されない。 ・変形は確認されない。 ・基礎の沈下は確認されない。 ・その他の変状() 	

健全度評価フロー

点検した変状レベルの個数にて健全度を評価する。決定した評価フローについて着色しておくこと。

